

行田の足袋・足袋蔵関連のイベント

平成 29 年に「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」が日本遺産に認定された。そして、同年 11 月の日曜日から TBS にてドラマ「陸王」放送されました行田はフィーバーしました。そんなことで、昨今の行田はイベントラッシュです。平成 30 年 4 月から、現在までのイベントを列挙すると、「旧忍町信用組合店舗の特別公開 4 月」、「ぎょうだ蔵めぐりまちあるき 2018 4 月」、「さきたま火祭り 5 月」、「ハンドメイド市 6 月」、「足袋蔵昔体験セミナー 2018 8 月」、「起業支援施設として着物仕立て屋オープン 8 月」、「たんぼアート 2018 10 月」、「埼玉 WABI SABI 大祭典(大宮公園) 10 月」、「町を生き生き応援隊養成全 3 回 10 月」、「忍町アートギャラリー 11 月」、「和ンダーランド埼玉 11 月」、「みずしろフェスタ 2018・11 月」、「足袋コレ 2018 11 月」、「忍城時代まつり 2018 11 月」、等が挙げられる。



一方、行田市は次の通り、調査結果をまとめている。調査の目的：日本遺産を活かしたまちづくり(地域振興)の方向性、足袋蔵を再活用の具体化。調査の結果：中年世代や県外居住者へにアプローチや、歩いて蔵めぐりをする等のニーズをさらに活かせる、点在する足袋蔵のイメージ像の確立と宣伝が望まれる。行田市内の名所、とりわけ街全体に点在する足袋蔵を巡る魅了を再認識することが重要。ほとんどの足袋蔵が、公開・活用に際して何らかの補修・改修を行う必要があること、所有者の公開・活用についての意欲は個々に異なるが、全体的に所有者の公開・活用に対する意欲は低い。平成 29 年度主要事業概要・行田市より抜粋。傍線は筆者。

この調査結果を含めて足袋・足袋蔵関係のイベントには、この調査結果が反映していると思われる。

まず、「ぎょうだ蔵めぐりまちあるき毎年 4 月または 5 月開催」。このイベントは「NPO ぎょうだ足袋蔵ネットワーク」が主催するもので、普段から公開・活用している足袋蔵のみならず、この時期に特別に公開する足袋蔵も含めて約 16 棟の蔵めぐりである。調査の結果にあるように、新規に公開するまでの準備、アプローチには並々ならぬ所有者との折衝がある模様。公開する足袋蔵でギャラリー、ショップを開くことも特長。2018 年は新たに数棟加わってる。右図は同イベントのスタンプラリー。「大澤蔵」のスライド映写等、蔵めぐり初参加の「森家土蔵”もりばん蔵”」古蛙庵。「保泉蔵」の瀬藤貴史さんによるアート展が新しい企画です。



さらに、同 NPO が主催する「足袋蔵昔体験セミナー」は、近隣の小学生を対象に夏休みの体験学習を行うイベントです。会場は足袋蔵の「牧禎舎」と「忠次郎蔵」で、各店蔵の活性化の一助になっています。公開・活用に対する意欲の高い事例。右図は忠次郎蔵での小学生のうどん打ち体験。

次に、行田足袋コレ実行委員会主催の「足袋コレ 2018」。「これこそ足袋」というこだわりを持った方や「こんなア



レンジもあるのでは」という"新たな足袋"を提案したい方を対象の写真コンテストです。世代を超えた老若男女が参加賞を期待して各地から集合してきます。行田の足袋について将来を期待する格好のイベントです。



調査名

足袋蔵等再活用のマーケティングリサーチ事業

調査のねらい・目的

日本遺産の構成資産である行田市の足袋蔵等歴史的建造物の現状、所有者の今後の活用意向等を把握するとともに、来訪者の視点から見た足袋蔵等の魅力、整備すべき施設のニーズを探り、日本遺産を活かしたまちづくり（地域振興）の方向性、足袋蔵を再活用の具現化について考える。

調査結果（概要）

アンケート調査は、ドラマ「陸王」放映後に行ったが、放映前にも同様のアンケート調査を行っており、両者を対比して分析を行った。その結果、「総じて、行田市の日本遺産認定のPRにおいてとくに中年世代や県外居住者へのアプローチや、歩いて蔵巡りをする等のニーズをさらに活かせる、点在する足袋蔵のイメージ像の確立と宣伝が望まれる。

足袋蔵のイメージ像が明確ではないため、点在する足袋蔵をゆっくり歩いて見て体験できる内容の充実が各々の足袋蔵のイメージ像になることに限らず、足袋蔵の街全体を通じてのイメージを打ち出すことが重要と思われる。TVドラマ「陸王」でも行田市内をランニングする光景が何度も描かれた。そのため行田市内の名所、とりわけ街全体に点在する足袋蔵を巡る魅力を再認識することは重要であろう。

行田市が日本遺産に認定されたことの認知が低いことも考慮して、単に古い意味での歴史的な足袋蔵というよりも、新しい視点で足袋蔵等を体験してみたい等、中年世代でポジティブな考え方が人が行田を好むことが推察される。まずは少数であっても中年年齢層で何度も訪れたい人に向けた情報発信からでもこれからの時代や社会に合わせて柔軟に対応する継続的な実行が、行田の歴史をつくると考えられる。」との結論が得られた。

足袋蔵等歴史的建造物の現状、所有者の今後の活用意向についての調査では、ほとんどの足袋蔵が、公開・活用に際して何らかの補修・改修を行う必要があること、所有者の公開・活用についての意欲は個々に異なるが全体的に公開・活用に対する意欲が低いことが明らかになった。